

## 平取ダム地域文化調査業務の概況

## 1 精神文化現地調査

## 1) 調査項目

- カムイノミ箇所（湛水前＝現状）の把握 <文献・聞き取り>
- カムイノミ箇所（湛水前＝現状）の現地状況調査
- カムイノミにおける儀礼行為の現状把握調査<聞き取り>

## 2) 調査報告

## (1) カムイノミ箇所（湛水前＝現状）の現地状況把握

- ・調査箇所：平取ダム建設予定地周辺、額平川流域
- ・本報告では、現地踏査の対象とした平取ダム建設予定地周辺について報告

アイヌ文化環境保全対策調査（H15～17年度）『総括報告書』に加えて、今年度の調査により、以下の6項目について、新たに祈りの対象やカムイノミ箇所が把握されたり、情報が追加された。

## 1 エチナンケ（上の部分が欠けている山の様子）・荷負本村のチノミシリ（Dbさん、Obさん）・Ebさんのパセオンカミ

- ・『総括報告書』では、エチナンケは、宿主別川河口付近の崖と推測していた。
- ・エチナンケは、e = その頭 ci = ~される n a n k e = 削る・欠く という解釈をもとに現地を検証した結果、平取町では、「上の部分が欠けている様子の山」ということから、宿主別川河口付近の表1の場所を特定した。

【アイヌ語辞典 沙流方言 田村すず子】【萱野茂のアイヌ語辞典】

## 2 ペテウコピ（川が繋がる所）について

- ・『総括報告書』では、祈りの対象としてのペテウコピと、合流点付近で行われたカムイノミ（神への祈り）の情報を1つの場所として記載していた。
- ・今回の調査では、より詳しく調べた結果、祈りの対象とカムイノミ箇所（表5、表13）を分類・記述した。
- ・また、『萱野茂のアイヌ語辞典[増補版]』（萱野茂著 2002年三省堂発行）では、ペテウコピ（川が繋がる所）という表記だが、2004年2月3日に行われた萱野茂さん聞き取り調査の際、「ペテウコピは、川が繋がる所」というお話から「ペテウコピ」という表記とした。

## 3 荷負本村の男性Obさんがチャルパ（先祖や神へ供物などを贈るために散らす）やカムイノミをしていた場所

- ・『総括報告書』では、荷負本村の男性Obさん番兵小屋の外からチノミシリに向かってカムイノミしていた場所と記載していた。
- ・今回の調査では、Obさんが小屋から外へ出て、チャルパをし、カムイノミをしてい

た場所と記載した。

#### **4 荷負本村の男性O bさんの関連箇所**

- ・ 番兵小屋の道路を挟んだ向かい側にも荷負本村の男性O bさんの小屋があり、カムイノミをしていた可能性があることがわかった。

#### **5 マタギの人たちが獵に出かける前のカムイノミをしていた場所**

- ・ 糠平川と宿主別川のぶつかっている二股（合流点）の付近の少し高い場所に三角小屋があり、マタギの人たちがカムイノミをした場所であることがわかった。
- ・ O bさんはカムイノミをする方だったので、この場所でもカムイノミをしていた可能性があることがわかった。

#### **6 荷負本村の男性D bさんとO bさんがカムイノミをしていた場所**

- ・ 荷負本村の女性Bさんの祖父であるD bさんが宿主別川の川下や幌尻岳に向かって祈っていた場所であることがわかった。
- ・ 荷負本村のO bさんも番兵小屋の向いの方にある川越しの大きな崖の方を向いて、山と川の神様の両方にお祈りしていた場所であることがわかった。

祈りの対象や場所	地図番号：タイトル
	内容・出典
 <p>エチナンケ・チノミシリ(D bさん、O bさん)・E bさんのパセオンカミ</p>	<p><b>1</b>：エチナンケ(上の部分が欠けている様子の山)・荷負本村のチノミシリ(D bさん、O bさん)・E bさんのパセオンカミ(位の高い神への祈り)</p> <p>荷負本村の人たちや荷負本村の男性O bさんがお祈りをしていたチノミシリです。荷負本村の男性D bさんが孫のJさんとカムイノミをしていた祈りの対象です。【参考文献『総括報告書』P216/P439】荷負の男性E bさんのパセオンカミの対象となるカムイのうちの1人であるクエラン姫神は、宿主別川河口のエチナンケ峰に在るといわれています。【参考文献『総括報告書』P204/P439】</p>
 <p>額平川と宿主別川のペテウコピ</p>	<p><b>2</b>：ペテウコピ(川が繋がる所)</p> <p>平取ダム建設予定地である額平川と宿主別川合流点は、カムイ(神)達が集まってコタン(村)を守る相談をしていた場所として伝えられ、また、“川と川がぶつかる場所”である合流点は祈りの対象です。【参考文献『総括報告書』P439】</p>
 <p>荷負本村のO bさんがカムイノミをしていた場所(番兵小屋跡)</p>	<p><b>3</b>：荷負本村の男性O bさんがチャルパ(先祖や神へ供物などを贈るために散らす)やカムイノミをしていた場所</p> <p>荷負本村の男性O bさんが番兵小屋の外からチノミシリ(番兵小屋から道道芽生貫気別線をスズラン保全地区に向かって300m進んだ場所から見ると貫気別山の手前に見える山)に向かって、カムイノミをしていた場所です。【参考文献『総括報告書』P217/P440】また、O bさんが小屋から外へ出て、チャルパをし、カムイノミをしていた場所です。(平成18年度調査より)</p>

祈りの対象や場所	地図番号：タイトル
	内容・出典
 <p data-bbox="256 647 667 678">荷負本村の男性O bさんの小屋があった場所</p>	<p data-bbox="762 259 1289 293"><b>4：荷負本村の男性O bさんの関連箇所</b></p> <p data-bbox="762 309 1417 539">番兵小屋の道路を挟んだ向かい側にも荷負本村の男性O bさんの小屋がありました。 荷負本村の男性O bさんは、カムイノミをする方だったので、この場所でもカムイノミをしていた可能性がある。（平成 18 年度調査より）</p>
 <p data-bbox="188 1084 732 1162">マタギの人たちの三角小屋があり、イノウチパでカムイノミが行われた場所</p>	<p data-bbox="762 701 1417 779"><b>5：マタギの人たちが獵に出かける前のカムイノミをしていた場所</b></p> <p data-bbox="762 795 1417 1167">額平川と宿主別川のぶつかっている二股（補：額平川と宿主別川の合流点）の付近の少し高い場所に三角小屋があり、マタギの人たちが5・6人集まってイノウチパでカムイノミをした場所です。 次の日、炉辺に立っているイノウ（木で削った御幣のようなもの）は川に流し、大事なものは小屋の前に置いてから、額平や宿主別に獵に出かけて行きました。（平成 18 年度調査より）</p>
 <p data-bbox="188 1581 732 1637">荷負本村の男性D bさんとO bさんがカムイノミをしていた場所</p>	<p data-bbox="762 1184 1417 1263"><b>6：荷負本村の男性D bさんとO bさんがカムイノミをしていた場所</b></p> <p data-bbox="762 1279 1417 1603">荷負本村の女性Bさんの祖父であるD bさんが、宿主別川の川下や幌尻岳に向かって祈っていた場所です。 また、荷負本村の男性O bさんも番兵小屋の向かいの方にある川越しのチャシ（砦）のような、大きな崖の方を向き、山と川の神様の両方にお祈りをしていた場所です。（平成 18 年度調査より）</p>

祈りの対象や場所	地図番号：タイトル
	内容・出典
 <p>シケペコタン(荷負)のチノミシリ (B bさん)</p>	<p><b>7：シケペコタン(荷負)のチノミシリ(我ら祭る所) (B bさん)</b></p> <p>荷負のシケペコタンの地域の方もカムイノミ(神への祈り)をし、一番大事にしている祈りの対象です。シケペコタンの男性B bさんのチノミシリは、宿主別川と額平川の合流地点のやや下流の崖だといわれています。【参考文献『総括報告書』P 203/ P 215/ P 439】</p>
 <p>荷負本村・荷負のチノミシリ</p>	<p><b>8：荷負本村・荷負のチノミシリ (E bさん)</b></p> <p>荷負本村のチノミシリで、長知内の男性U aさんの荷負に住んでいた祖父E bさんらは、家の中からチノミシリに向かってカムイノミをしていました。【参考文献『総括報告書』P 216/ P 439】</p>
 <p>カムイワツカとよばれる湧き水</p>	<p><b>9：カムイワツカと呼ばれる湧き水</b></p> <p>宿主別橋の手前右側の湧き水はカムイワツカとよばれ、荷負本村の男性D bさんやG cさん、カムイワツカを通る人たちがこの湧き水にカムイノミ(神への祈り)をしていました。宿主別橋付近に住んでいた人や学校の生徒たちも飲み水として利用していたなじみの深い湧き水です。【参考文献『総括報告書』P 222/ P 440】</p>
 <p>荷負本村の男性D bさんがヌサに向かってカムイノミをしていた場所</p>	<p><b>10：荷負本村の男性D bさんがヌサ(祭壇)に向かってカムイノミをしていた場所</b></p> <p>荷負本村の男性D bさんが住んでいた家があり、家の外には幌尻の方に向かってヌサがありました。D bさんがヌサに向かってカムイノミをしていた場所です。【参考文献『総括報告書』P 224/ P 441】</p>

祈りの対象や場所	地図番号：タイトル
	内容・出典
 <p>荷負本村の男性D bさんがイヨマンやカムイノミをしていた場所</p>	<p><b>11：荷負本村の男性D bさんがイヨマンテ（熊送り）やヌサ（祭壇）にカムイノミ（神への祈り）をしていた場所</b></p> <p>荷負本村の男性D bさんの家があり、宿主別で獲ったキムンカムイをイヨマンテした場所です。また、小屋のすぐ側にイノウチパ（家の外側にある祭壇）を作り、カムイノミをしました。D bさんがヌサの他に、カムイワッカとポロシリとピラホラックにカムイノミをしていた場所でもあります。【参考文献『総括報告書』P 176/ P 194/ P 221】</p>
 <p>荷負本村の男性E bさんのマタギ小屋があった場所</p>	<p><b>12：荷負本村の男性E bさんのマタギ小屋があった場所</b></p> <p>荷負本村の男性E bさんは、現在のスズラン群生地奥のマタギ小屋を持ち、宿主別などをイウオロにしていました。E bさんのものかは定かではありませんが、ここを通った時にイノウチパがあり、くまの頭などを祀ってあったのを見たという方がいることから、イヨマンテが行われていた可能性があります。【参考文献『総括報告書』P 179/ P 194】</p>
 <p>D bさんがカムイノミをした場所</p>	<p><b>13：荷負本村の男性D bさんと孫のJさんがカムイノミをした場所</b></p> <p>D bさんの孫である貫気別の女性Jさんが、おじいさんと2人で宿主別川と額平川の合流地点から見える高い山や周りの山々に向かってイノウ2本を立ててカムイノミをした場所です。【参考文献『総括報告書』P 216】</p>

(2) カムイノミにおける儀礼行為の現状把握調査

1) 平取ダム建設予定地周辺および額平川流域で、何かの機会にカムイノミ(お祈り)・チャルパ(先祖や神国へ供物などを贈るために散らす)等を行っている場所がありますか。

祖父が住んでいた番兵小屋があった場所(表3、表11)や祈っていた場所(表9のカムイワッカ)にチャルパしている。

特定した場所はないが、山菜採りなどで行った沢にイチャルパ(補:チャルパ)をする。

昔からカムイノミをしている山が自分の住んでいる近所にある。  
仕事などで奥の方へ行ったら、自分なりの気持ちでチャラパなどをしていたが、現在は、チノミシリ(表1と貫気別山の手前の山のチノミシリ)とかに手を合わせてお祈りをしている。  
知り合いに連れて行ってもらい、湧き水(カムイワッカ)にカムイノミをしてきた。自分の言うことが半分でも届いたのか分からないがカムイノミして来た。  
春先にイペペシナイに行ってチャルパをしている。  
やったこともないし、見たこともない。  
ペテウコヒで真似事をした。  
平取ダム水没予定地にカムイノミをしに行っている。  
芽生に住んでいた時は、近くの崖に秋の収穫が終わった後にカムイノミをしていた。  
山の仕事をしていた時、モソウシでカムイノミをしていた。  
特にカムイノミやチャラパを行っている場所はないが、新しい山に仕事に入るときには、その山にある一番古い老木に祈願している。  
舅さんが住んでいた番兵小屋(表3)とポンナイ(表9のカムイワッカ)にチャラパしている。  
荷負本村の神社の境内のヌサ(祭壇)があったところやエンジュの木にチャラパしている。  
ない。  
特に決まっていないが、山菜採りに行ったとき小沢で。  
芽生のところの湧き水(カムイワッカ)には、チャラパはしている。

## 2) どのような機会にカムイノミ・チャルパ等をしているのですか。

家では常にカムイノミはしている。お酒などを飲むときもオンカミ(礼拝)して神様からお下がりをいただいている。  
平取ダム建設予定地周辺に行った(補:通りかかったりする)ときにしている。  
山菜などを採りに山の中に行って沢をまたぐとき。  
山菜採りのときや、近くの山や、どこの山に行ってもカムイノミ(神への祈り)やイチャルパ(物を撒き散らす)をしている。  
大きな木を伐りに行くときや、薪を拾いに行くときや山菜を採りに行くとき。  
山菜を採りに行く時も、ちゃんと山の神さんに「山に入り、野菜貰って行くから」とチャラパ(お供えものを散らし、先祖や神の国へ贈る行為)をしている。  
現在もお正月やお盆に、住んでいる所の人が歩かないような場所で簡単にだが、シンヌラッパ(先祖供養)をしている。  
春と秋に畑に行くときにチャルパをしている。  
山菜を採るときにチャルパをしている。  
仕事で山に入る前に。  
自分でトゥキ(お椀のような形の塗り物)もパスイ(簞)も持っているのですが、しょっちゅうではないが先祖の供養ということもありやっている。現在は石油ストーブだが気持ちでチッカ(したたらす)している。  
自分が造材の仕事で山に入っていたとき(50年前)。  
お盆とお正月は、毎年、シンヌラッパをしている。  
ウタリ協会の活動で参加するだけ。

スズラン祭りなどで通りかかったときなどにチャラパをしている。

荷負本村の神社には、近所に住んでいた女性を思い出したときにチャラパをしている。

荷負本村の神社の境内で母親や近所の男性がいたときには、お米などを撒くことをしただけで、現在は、ウタリ協会の行事などに参加したりするだけで、やっていない。

シンヌラッパは、お盆とお正月にやっている。シンヌラッパは昼にやるもの。

本家のストーブのところでカムイノミをしている。

米と塩を持って行き、山の神様に「庭で遊ばせて下さい。怪我もない様に、悪いことはしませんから」と日本語で言う。

婿が山に入ったとき、川の縁でご飯食べるときは、「山に対して、悪いことしないから」という意味であげている。

山菜採りに行ったときカムイノミをする。

芽生のところの湧き水(カムイワッカ)を通ったときに必ずしている。

### 3) カムイノミ・チャラパ等は、現在、どのような形でおこなっていますか。

川に石を投げて、塩と米を撒き、水の神さんに来たことを教える。

木の前に酒と塩を石の上に置き、「今日はいろいろもの(山菜)があるように」と言って、から山に上がる(補:登る)。

カムイノミは適当に出来ないので、火の神さんに先に何でも話をしてほしいし、山に行って、沢を渡る時に必ず、沢の神さん、川の神さん、山の神さんをお願いして、それから山へ入る。採ってきたものは先にフチアペ(火の神)に捧げる。

山菜採りや山に行ったときには「私は山菜採りに来たけれど、何事も無く採らせてください。持って帰っても人間ばかりではなく、カムイフチ(火の神)、フチアペ(火の神)に先にパロオスケ(～の為に煮たきをする)して、それからやるから」と言う。

1年に1回か3年に1回くらい、近くの山へ行き、「部落を守ってください」とカムイノミ(神への祈り)をして、イチャルパ(お供えものを散らし、先祖や神の国へ贈る行為)をする。

塩・米・酒・お菓子などを持って行ってチャラパをしている。

ワンカップ(お酒)やタバコを持って行ってチャラパをする。

山の神の為にイナウを削ったものをお宮に入れて、作ってある。

50年前は、御幣を作って飾った。その頃はシャモ(和人)が絶対主義の時代だったので。

お膳にお菓子や米などを用意し、外で炊きつけで火を起し、火の神様にチャラパしている。

お米や塩、お酒を祀っている。

お米や塩、ワンカップ(お酒)でチャラパをしている。

ワッカウシカムイ・ナイコロカムイ・シランバにオンカミ、チェホロカケブを2つ作って神に祈る。

ケルカムイ(家の神)にオンカミ(礼拝)するときは、ブロク、イナキビ、ヒエ、アワ、タカキビを精白して使う。

米と塩を持って行く。

婿が山に入ったとき、川の縁でご飯食べるときは、「山に対して、悪いことしないから」という意味であげている。

お酒を持って行くときもあるが、いつも持っているタバコやパンなどをちぎってチャラパして



いる。

#### 4) カムイノミは、アイヌ語でおこなっていますか。日本語でおこなっていますか。

山の神様に「庭で遊ばせて下さい。怪我もない様に、悪いことはしませんから」と日本語で言う。

現在、カムイノミやチャラパをするときは、日本語で「火の神さんから、先祖に贈ってちょうだい」と言っている。

アイヌ語を覚えているのでアイヌ語するが、お祈りの言葉は、日本語でもいいと思う。

日本語でも言えるが、先祖(エカシやフチ)にカムイノミするときは、アイヌ語でやる。カムイノミは、アイヌ語と日本語でしている。

木を伐るときは、木に向かって「無事に倒れるように」と神様にアイヌ語でお祈りをしている。

薪を拾うときは、沢からお神酒を流して、「山へ入ります」とお祈りをしている。

山菜を採りに行くときは、山の神さんに「山に入り、野菜貰って行くから」とチャラパをしている。

採ってきた山菜は、火の神様に、「山奥に行き、いろいろな青もの(山菜)を無事に採って来たから」とお祈りする。

チャラパするときは、アイヌ語で言う。

嘘を言うわけにいかないのではない、と言いつつ日本語とアイヌ語を散りばめながら言ったことはある。

全てアイヌ語で行っている。

アイヌ語は、分からないので日本語でお祈りをしている。

アイヌ語は、分からないので日本語でお祈りをしている。

現在も全部、アイヌ語でやっている。

カムイノミの言葉をアイヌ語では聞いたことがないし、昔はアイヌ語を教えたら駄目だって言われていたので、親からは教えてもらわなかった。現在は、日本語で火の側で火の神様にやる。

アイヌ語は、分からないので日本語で。

#### 5) なぜ、その場所にカムイノミ(お祈り)・チャラパ等をしているのですか。

祖父が住んでいた場所(表3、表11)や祈っていた場所(表9)だから。

山に行ったらたくさん山菜などが採れるようにお祈りをする。

おじいさん達がカムイノミなどをしていた場所なのでお祈りしている。

イペペシナイに親がしていたので。

自分が生きている間だけでも、親がしていたことだから(補:チャラパ)する。

昔、舅さんが住んでいたところなので。

父親がやっていたので。

父親と一緒にいくたびに芽生のところの湧き水(カムイワッカ)にがしていたので。

#### 6) 家族の人や家族以外(近所の子供など)で伝える(受け継ぐ)人はいますか。また、受け継ぐ気がある人はいますか。

現在、息子はアイヌ語でさえも分からなし、カムイノミやチャラパはしない。

神に言う言葉をエタラカ(めちゃくちゃ・でたらめ)に言うこともできないし、もし、ちゃんとできる人がいたとしても、(補：カムイノミは)してほしくはなし、誰かに続けてほしいとも思わない。

家族にはいないが、シャモ(和人)もアイヌも関係なく、これから山に行く人がいたら教える。子供たちには教えていないが、本が出ているので、それを孫たちに預けている。

自分のようにして欲しいと思うが、無理だと思う。自分が小さい頃から見たり、聞いたり経験してきたことを教えてやりたいが、それはしない。やればいいと思うが、今の子供たちはしない。

やりたいといえば話をして教えるが、聞かれなければ教えない。聞かれれば何でも教える。いない。息子も孫たちもそういうことは分からないし、やる気もないだろう。自分としては、やってくると嬉しいが、本人次第なので…。死ぬ前には、言っておこうとは思っている。お爺さんはオイタコテ(補：葬式、引導を渡す)して歩いた人で、「一言でも間違えたらとってかれない(補：神がその言葉を持っていってくれない)」と言っていたので子供たちには教えない。

子供には教えていなく、現在はいない。

息子と孫に教え、やらせている。

孫はいるが、興味がないようだ。

家族は、あまりアイヌ文化に興味がないが、アイヌ文化に抵抗をもっているとかではない。

子供にアイヌの風習を教えていない。子供も習おうとしない。

家族は関心はないが、娘婿はアイヌ語の勉強をしている。

自分のしていることを見ているから、知らない内に婿や娘も山に入るときにカムイノミをやっているかもしれない。

娘は、祖母から習って、アイヌプリを覚えているらしい。

芽生のところの湧き水(カムイワッカ)のところには、娘は連れて行ったことが無いので、私の時代で終わりだと思っている。カムイノミやチャラパをしていた場所を受け継いで、してくれたいとは思っている。

## 7) 家庭の中で残しているもの(信仰や精神文化)は、ありますか。

山菜を採って来たときには、母親にちゃんとしなきゃ(カムイノミやお礼を言わないと)駄目だと言われた。

お爺さんが「道路に唾気をはいてはいけない」、川(イペペシナイやヌブキオクナイ)にも「汚いものを流すな。川の神さんと水の神さんがあってみんな生きているのだから絶対に粗末にするな」と言われてきたから、子供たちにも守らせている。

「カムイノミは一言でも間違えると神様に通らない」と爺さんが言っていたので教えることはできない。

爺さんは、「災難の無いように守って下さい」と道路の神さんに必ず言っていた。自分も子供たちに旅行に連れて行ってもらったときなど必ず言っている。

仕事で山に行ったときは、「タバコに火をつけて山の神さんや川の神さんに元気で仕事ができるようにするんだよ」と教わった。

基本的には、記録的にきっちり保存管理するという必要だと思っている。

百歩ゆずっても碑のようなもの（精神文化を象徴するコタンコロカムイ、オキクルミ、サマユンクルの像）ぐらいかなとは思っている。皆に説明するという意味をもって、何かの展示というか資料館（記念、展示、説明する場）といったものは一つ必要かなと思う。ただ、箱物だけを建てればいいということにはならない。

チノミシリは特定の個人のいうものではないと思う。地域（その流域民族の魂の宿る所）のものだとは思ふ。

チノミシリは民族全体の共有財産、精神文化だと思う。そういう事実があるということをもみんなに分かってもらいたいと思う。

カムイノミ中に女がふざけたらウェンメノコ（悪女）と言って怒られたことがある。

舅さんから、カムイノミをしたあとのパケシ（飲み残りの酒、お流れ）をもらっていたが、「カムイパケシ（神が飲み、残ったお酒）だから残したら駄目だ」と怒られたことがある。

クワ（墓）たてようとしたら、あの木この木が良いって言ったら他の木が悔しがるから、無言で木を選ばなきゃ駄目だと父親に教わった。

火の側で火の神様にお祈りをすればクマの神様に通じると聞いた。

火の神と山の神はつながっていて、狩に行く前に火の神の前で話しはしない。

山菜を採りに行っても、小さいもの（山菜）は、必ず2～3本残している。

知らない人から物をもらう夢を見たときには、「昨日、頂いたが、私は受け取れないから」と言ってトイレの神様に返しますと言葉を言う。

嫌な夢を見たときには、人に話すと災難から逃れることができると聞いた。

動物が遠吠えしたときは、「嫌な知らせがある」と親から聞いていた。

**8) もし、カムイノミをしている祈りの場所（山・崖・川）や、カムイノミ・チャルパ等をしている場所が、平取ダムの建設によって影響（水没やなんらかの影響）をうけるとしたら、どのような形で残してほしいですか。**

カムイワッカは、上の高いところから出て（補：湧いて）いるが、（補：道路を）横にでもまわして行けるようにしてほしい。やっぱり無くしたくはない。

カムイワッカが湧いている上のところは、平らだと思うから現在のように滝（水が流れる）ようにはならないと思うが、現在のように滝（水が流れる）にしてほしい。滝になっているからこそ値がある。

いつでも気軽にカムイワッカに行けるようにしてほしい。

祖父の番兵小屋があった場所（表3）にもダムができて水が溜まってしまうと、行けるのか心配だ。水がないときにだけでも行くことができるようにしてほしい。

ダムを造るとなったら、どうにも出来ないが、誰かが行ってカムイノミをするか、それかお払いするかどうかの方がいいと思う。

少し景色（景観）が変わるが、ちゃんとした場所を残しておくといいと思う。

ダムの上の二股（補：堤体建設予定地より上流の合流点）の、水が乗らない所にイナウチパ（家の外側にある祭壇）を作るのもいいと思う。1939・1940年（17、18歳）頃、額平川と宿主別川のぶつかっている二股（補：合流点）の少し高い、大雨でも水が浸からないところの三角小屋に、イナウチパ（家の外側にある祭壇）があり、マタギの人たちが5、6人集まり、泊まって、カムイノミ（お祈り）をしていた。家の炉<sup>いろり</sup>辺に立っているイナウは川に流して、大事なも

のは小屋の前に置いて、それぞれ額平や宿主別に行った。そういう場所をどこかに作ればい  
ダムを建設することには反対はしない。賛成だ。ただ、昔のマタギ小屋があった所に行き、小  
屋が建っていたところに火でも焚きチッカ(したたらす)でもして、それからどうするか考え  
た方がいい。

これからダムを造るのであれば、カムイノミをしてから手をつけて(補:着工して)もらった  
方がいい。川の神様や土地の神様などがあるし、地元のことなので、イナウ(木で削った御幣  
のような物)を作り、立てて、「新しくダムを造ります。事故のないように」と頼んで、カム  
イノミ(神への祈り)をして、ちゃんとやった方がいいと思う。

カムイノミ、イチャルパ(物を撒き散らす)をして、ダムによって沈むところはこうなると言  
うことを神様に伝えたい。

カムイノミをした山などは残したい。

ダムを造る時や何かする時は、何日か前にカムイノミをしないとならない。

昔からチノミシリは、良い神様、悪い神様も降りてくる場所だといわれているので、ダムを造  
るとなると、そこだけはアイヌでもシャモ(和人)でも分かるように残してもらいたい。大事  
にしてもらわなきゃどうにもならないと思っている。自分たちも何でもかんでも勝手にされた  
ら嫌なので。砂防でもちゃんとしてもらいたい。

昔の先祖から言ったら、そういう所は自然のあれだから…自分たちが言ったからと聞くわけ  
でもないが、出来ればやっぱりそのまま残してそっとしてほしい。

芽生から行って、川渡る前(補:カムイワッカのことらしい)、昔からあった水で、皆そこか  
ら水をくんでいたが、残してといっても残せないでしょう。奥にダムを造って何になるのか?  
山菜もみんな、湖の底になる。水が可哀想である。

カムイノミの場所は、大体この辺ということは言っているし、場所は大体決まっている。カム  
イノミをする場所は、高台に上げないと駄目だと思う。高台に上げ、チノミシリに正面にちょ  
っとした建物を建ててもらって、カムイノミの場所を造りたいと思っではいるし、そうさせたい。

祈りの場所が見やすい所で、カムイノミができるようにちゃんとした場所を確保してほしい。  
できれば駐車場があるような場所を確保して欲しい。

祈る場所を移転するか、記念碑みたいなものを建てて、その場所でカムイノミができるような  
形をとれるようにしたらいいと思う。

いろいろな遺跡が水没してしまうので、記念館のような建物を残してほしい。

自然を残すために広い土地を用意してもらって、植物を植林し、のちに管理する体制を作り、  
ウタリ協会平取支部の事業にしてもらいたい。そのような事業を行うことにより、将来、支部  
の活動やアイヌ文化を伝承していくことができると思う。何もしなければ、このまま自然と文  
化も消えていくと思う。

ポンナイ(カムイワッカ)は、通ったときなどに飲んだりしたいので、できればそのまま利用し  
たい。

カムイワッカの場所が、サーチャージ水位(184.3m)まで水位が行かないのであれば、カムイワ  
ッカに行けるような階段を作る。

チノミシリに祈る場合、祈る人たちの視線は上の方なので、上のほうはあまり手を付けずに堤  
体を通って行ったところやチノミシリ崖などの堤体の近くや、荷負本村の男性がいたという

スズラン群生地に行く手前のカーブ(表 10)の高台にヌサ(祭壇)みたいなものを作った方がいい。

合流点は、水没した後も水没する前は、この位置にあったということが分かるようにした方がいい。荷負本村の男性がいたというスズラン群生地に行く手前のカーブ(表 10)の高台に分かるようにすれば、いい位置でチノミシリなども見ることができるのではないかと考えている。

チノミシリなどを全体的に見渡せるようなところが、1つは必要だと思う。

大事なもの(祈りの対象や場所)の中には、絶対に手を付けてはいけないものもあると思うが、神社やお寺の移築というものは、絶対駄目だということでもない。簡単にこっちが都合が悪くなったからと言って、こっちにというように、軽々しくやるものではないと思う。神様というものは、ウタリの人たちを見ていてくれていると思っているので、ウタリの人たちに良い利益があれば神様も理解をしてくれるのではないかと認識を持っている。その形にしたものが、利便性があるとか、平取町に利益があるという理由だけで簡単に平取ダム建設を行うべきではないと思っている。

特別希望は、ない。

芽生のところの湧き水(カムイワッカ)は、何かの機会に行くことがあれば行きたいと思っているので残してもらいたい。

**9) 今後、アイヌの人たちの伝統的な信仰や精神文化を多くの人たち(子供たちやアイヌ文化を知らない人やアイヌ文化に関心がない人)に伝えていくには、どのようにしたらよいと思われますか。**

誰かが教えないとならないと思う。今、アイヌ文化に携わってる人たちが、踊りやカムイノミ(神への祈り)などを出来るようにして、若い人や覚える気持ちのある人がいるなら教えた方がいい。それが出来なければ全て終わりになる。頑張って運動をした方がいい。

本などは何にでも出るからいいが、踊りや何かという時には、言葉で教えて、録音でもしておけばいい。

自分では、ウウエペケレ(物語)でもカムイユカ(神謡)でも、何でも録音しておいて、それを聞いている。

お年寄りの人たちが生きているうちに、これからは若い人たちにどんどん、アイヌ文化が無くならないように教えて、覚えていってもらわなければいけないと思う。アイヌ文化は、あくまでも残してもらった方がいい。だんだんお年寄りもいなくなるので、今のうちみんなにいろいろと聞いたり、本に残しておいたり、若い人たちに頑張ってもらいたい。

アイヌ言葉で全部話すことはできない。これが30~50年前だったら、年寄りが多かったから教えることもできたと思うが、遅かった。

ウタリ協会平取支部の中では、カムイノミの練習をしようという話は出ている。

子供たちが興味を持って覚えようと一緒に行くとすれば喜んで教える。

1つのイベントとして週報に載せる(シシリムカなどのように)。

アイヌ語教室でカムイユカを覚えているが、民族に関係のない人たちが一生懸命にやってくれることはいいことだなと思っている。

アイヌ語教室などで、カムイノミの練習をしたらいいと思う。

今、手がける平取ダムの関係で、もし支部が事業として管理などを任されるのであれば、将来、文化伝承について指導なども手がけることができ、伝承することができると思う。

若い人たちに続けていって欲しい。踊りやカムイノミを見せれば、見た人が興味を持ち、勉強などしていけば伝承されていくのではないか。

普段、アイヌ文化に多少の関心がある人たちでも、自分の生活に追われ、自分の仕事を優先にしているのでアイヌ文化に関心があっても限界がある。今回、いろいろなことを覚えられたのは、調査室の人たちが調査してくれ、資料としてもらったのでたくさん覚えることができたが、アイヌ文化に多少、関心がある人たちやアイヌ文化のことを知らない人たちが、アイヌ文化について専門にある程度の時間をかけて調べたりするということは、ある程度、生活をしていく形にならないと無理だと思う。調査室を見ていても分かるが、ある程度の賃金をもらって、そのことにより、時間をかけて覚え、覚えたことによって興味や研究心がでるといような体制が必要だと思う。そのような体制は、アイヌの多くの人たちが育ったり、関わったりすることが望ましいが、アイヌ文化に興味や意欲を持っている人たちが関わることは、とてもよいことだと思っている。

親父からもっとアイヌのことを聞いておけばよかったと思っている。父親に英語でも覚えた方がいいと言ったが、今思えば後悔している。

アイヌということで差別などがあるので、みんな隠しているから、受け継がれるものも受け継がれない。隠さなければならない状況がなくなれば、文化も残ると思う。今は、同じアイヌ同士でも差別をしている人もいる。

アイヌの人たちの踊りのリズムなどで孫などをあやしている。生活の中で自然に伝えている。

## 10) その他

手をつけると(ダムを建設)するなら、額平の奥の木を切って欲しくない。

ダムが出来れば、それだけ仕事もあるのでいいが、山をもう少し大事にする考えを持って欲しい。営林署に釘を押さなければ駄目。

あの場所がダムで沈んだら山菜はなくなる。

家で爺さん(補:父親)が大きい山(補:ポロシリ)に向かってカムイノミしていた。

あの場所(表1のチノミシリ)は貫気別の人ばかりでなく長知内の人たちもあそこにカムイノミをしていたという話は、出てきている。昔の人は山を歩くとき、トノト(酒)や塩や米などを持ち歩いてチャルパしながらカムイノミをして歩くということは聞いている。

あの場所(表1のチノミシリ)が一族のものという話がでているが、言いすぎだと思う。民族全員のものだと思っている。

付け替え道路の工事が始まる前にチノミシリの問題を開発に整理してもらいたい。春までには何とか格好をつけたいと思っている。

移動の出来ない祈りの対象は、開発に言ってもどうすることもできないのだから、カムイノミをして、神に告げて、やるしか仕方がない。昔のアイヌの人たちは、カムイノミを行って、そういうものを整理していたのだから、そうするしかないのではないか。

荷負本村の男性が、住んでいたところの真向かいにお祈りをしてた、という話を聞いてはいるが、たいがいチロンヌカムイ(キツネの神)、キツネだと思う。荷負本村の男性から聞いたわけでもないのだから分からないが、蛇の冬眠する場所にもオンカミ(礼拝する)。アイヌの人たちは、キナスッカムイ(蛇の神)にオンカミしていたものだったが、あの辺(平取ダム建設予定地・周辺の)でチノミシリ(我ら祭る所)は、4か所あるようだが、どこでオンカミしていたのかは、分からない。

娘や婿が帰って来るので、家までの道や付近の道を整備してほしい。  
スズラン群生地のところ（表 11）にも父親や叔父が子供の頃、住んでいた。そこ場所には、カ  
ムイノミやチャラパはしていない。  
自然の状況（力）もいろいろとあるので、むやみにダム反対とは言えない。

## 2 工事箇所現地調査

### 1) 調査項目

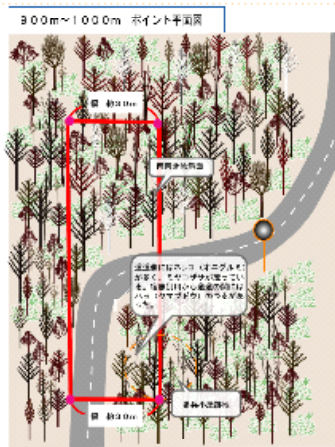
付替道路工事予定箇所の植物調査(立木)

### 2) 調査報告

- ・ 調査箇所は、道道芽生貫気別線付替道路計画の一部区間(1,500m)
- ・ 100m区画ごとに立木名の同定、胸高直径、樹高、地形等を取りまとめた。

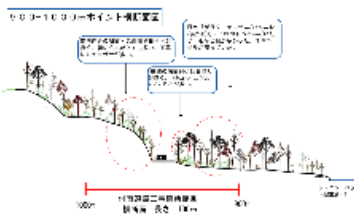
<立木調査の概況及び樹木調査データ記録の例>

#### 工事箇所現地調査(立木調査)900m~1000mポイント



樹木名(アイヌ語名/和名/通称名)	本数
アユニ/ハリキリ/せんのき	1
ウツシ/ヤマウルシ/うるし	5
ウトウカンニ/ミズキ/みずき	4
カスニ/ツリバナ*/えりまき	6
カリンパニ/さくら(エゾヤマザクラ含む)	70
キキンニ/エゾノウミズギ/ウミズギ	1
シュニ(シウニ)/ニガキ/にがき	4
スヌ/マナギ	33
セイニカバ/アサダ/あさだ	9
ソコニ/エゾノコ/こねこ	1
チキサニ/ハルニレ/あかだも/にれ	54
チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	61
トウレニ/ヤマグワ/くわ	4
トウニ/カシワ/かしわ	1
トベニ/ムイタヤ/もみじ類	153
ニベニ/オオハボダイジュ/おおじな	10
ニベニ/シナ/キ/あかじな	2
ネコ/オニグルミ/くるみ	30
ピンニ/ヤチダモ/やちだも	7
ブニ/ホオノキ/ほおのき	5
ペロ/コナラ/なら/いしなら	126
ペロ/ミズナラ/なら/みずなら	24
モマニ/スモモ/すもも	4
ヤイニ/イールニ/ドロノキ/どろのき	19
ワコ/カヅラ/かづら	2
レタツタニ/シラカンバ/しらかば	76
不明	13

区画の様子や踏査の様子



#### 食・薬・彫刻などに利用可能な樹木

樹木名	本数
チキサニ/ハルニレ/あかだも/にれ	1
チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	18
トウレニ/ムイタヤ/もみじ類	1
ニベニ/オオハボダイジュ/おおじな	1
ネコ/オニグルミ/くるみ	2
移植可能と思われる樹木	
カスニ/ツリバナ*/えりまき	2
チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	23
ネコ/オニグルミ/くるみ	1
ペロ/コナラ/なら/いしなら	2
モマニ/スモモ/すもも	4

この区画にはトベニ(いたや)とペロ(コナラ)が多くありました。道道芽生貫気別線周辺は日当りは良いです。  
食・薬・彫刻などに利用できる樹木ではチクベニ(エンジュ)が41本ありました。  
この区画には番兵小屋跡地があり、跡地側にはモマニ(スモモ)の本が2本あり、精神文化でも記述しています。

第一節 調査

#### 900m~1000m 区間の樹木調査のデータ(一部を抜粋)

区画	樹木ナンバ	樹木名(アイヌ語名/和名/通称名)	樹高	胸高直径	生育状況など	地形	日当り
9-10	I	688 チキサニ/ハルニレ/あかだも/にれ	12	6.5		川原・道路間	
9-10	I	639 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	7	9.5		川原・道路間	
9-10	I	640 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	8	10.0		川原・道路間	
9-10	I	652 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	9	6.5		川原・道路間	
9-10	I	653 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	9	11.0		川原・道路間	
9-10	I	654 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	9	12.0		川原・道路間	
9-10	I	661 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	8	18.0		川原・道路間	
9-10	I	707 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	8	8.0		急傾斜地・道路際	
9-10	A	260 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	7	5.6		平地	
9-10	A	367 チクベニ/エンジュ・イヌエンジュ/えんじゅ	10	5.4		傾斜地	

生育状況は、今回は秋・冬期間調査であったため、今後の調査で補完する予定



### 3 アイヌ語地名踏査

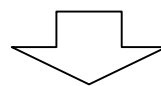
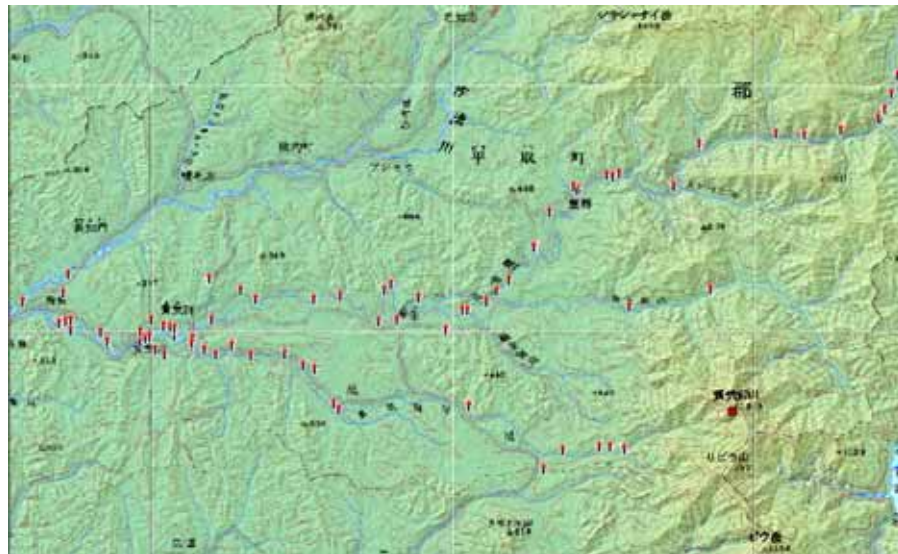
#### 1) 調査項目

##### アイヌ語地名箇所踏査

#### 2) 調査報告

- ・調査箇所は、総括報告書に記載されている 204 箇所のアイヌ語地名箇所
- ・GPS (グローバル・ポジショニング・システム) により地図上での位置を把握している

#### < アイヌ語地名現地踏査箇所の例 >



「ファイルメーカー」でデータベース化を行う

#### < アイヌ語地名データベースの例 >

3) 各調査項目に出てくるアイヌ語に関する情報整理

- ・アイヌ語地名など、調査に出てくるアイヌ語の情報を整理している。

< アイヌ語地名に関する情報整理の例 >

アイヌ語地名(現在の地区の名称)通称名	区分	ローマ字表記	アイヌ語逐語訳	解説及び由来	参考資料
1 シュクシ ベツ (シキウシユナイ) スクシベツ(宿主別川)	川	sukus-pet	sukus=日光、日がさす pet=川  siki=オニガヤ us=ついでいる、生えている。 nay=沢	スクシ、ベツ 終日陽の当たる・沢  菅野茂さんは日当 たちのよい川だといわれた。シュクシは日光、天気の意味。なお現在名の語尾の「しゅ」は、永田方正が子音シをシュで書いた語つが形が残ったものであった。永田地名解が「シキ・ウシ・ナイ shiki-ush-nai。鬼茅・ある・沢」と書いたのはこれだっただろうか。北海道地名誌は「シュクシ・ウシ・ベツ 蝦夷葱・の多い・沢の意味」と書いた。shukutut-ush-pet の意に解されたのであろうか。	平取町アイヌ語地名 菅野茂・姫田忠義  北海道の地名 (山田秀三)
2 エチナンケ	峯	e-ci-manke	e=その頭 ci=~される nanke=削る、欠く	荷負の木村ヌクアシ翁によれば、朝尻神は二女神で、次の如く? という。shukush-pet-putu シュクシベツ川口と takan yakka 我ら呼べども echinamke エチナンケ 峯なる opeket chupkashi 光明るき東面コロ-pase kamui 重く鎮まります神 kuieran-matuk エラン嫌 kamui	アイヌ民族の宗教と儀礼
3 カムイワッカ	湧き水	kamuy-wakka	kamuy=神 wakka=水		聞取りより
4 ピラホラク	崖	pira-horak	pira=崖 horak=崩れる		聞取りより
5 ルベシベツ(ルベシユベ沢)	川	ru-pes-pet	ru=道 pes=たどる pet=川	道たどる沢。地名で道内あちこちにある。和人入植者由来する通称ホタルの沢(左枝沢)	菅野茂のアイヌ語辞典

#### 4 栽培実証試験

##### 1) 調査項目

##### 栽培実証試験

##### 2) 調査報告

- 過去3年間にアイヌ文化環境調査室でアイヌ文化に有用な植物の種を採取し、調査室裏の畑で栽培実践した樹木について、継続管理と栽培に関する情報収集を行った。

##### < 樹種毎の栽培方法に関する情報とりまとめの例 >

樹種	開花期	種子・果実	種子採取時期	乾燥など前処理	まき付け時期・発芽時期など	まき付け方法など	まき付け床の管理
1 アツニ/ オヒョウ/ おひょう	5月上旬	果実(翼果)は小枝に付着した葉のような緑色で成熟すると黄色から淡褐色になる。	6月中旬 ~下旬		・翼果のとり播きは当年発芽は極めてわずかで残りの大部分は翌年春に発芽する ・貯蔵種子のまき付けは、春まきまたは秋まきする。 ・土中埋蔵は自然環境による保湿貯蔵であり、まき付けまで露地に埋蔵する方法で種子を湿った川砂と混合して目の粗い布袋または麻袋などに入れて排水の良い緩傾斜地に深さ50cmに適当な穴を掘り川砂を少し敷き、その上に種子袋を埋めて盛り土する。なお、川砂は用いる種子より粒径の小さめの方が、後で篩い選別に都合がよい。	・アツニ(オヒョウ)の覆土後の被覆は苗床シートより稲藁の方がよい。	発芽を始め生え揃った頃に、シートを取り除き日覆する。日覆期間が長すぎると日光不足で苗の生育が悪くなる。10月下旬に苗の堀取り仮植を行う。選苗は大小別に行うが、大苗は山出しもできる。床替苗木は秋まで1m以上に成長する。
2 アユシニ/ ハリギリ* /せんのか	8月中旬	果実は(液果)は青紫色から黒色に熟す。	10月中旬 ~11月上旬		・果肉付きとりまきを行っても翌春の発芽は認められず、翌々春の発芽になるので据置床として取り扱う。 ・貯蔵用種子のまき付けは、初夏(6月下旬)までに土中埋蔵して秋まきすると翌春発芽する。	・幼苗は直射日光に弱いのので日覆期間を長くする。 ・とりまきは散播を行い押さえ板で種子を定着させる。苗畑土で覆土を行い押さえ板で押えて稲藁で被覆する。 ・貯蔵種子のまき付けは覆土後苗床シートで被覆を行って、翌春発芽が揃った頃取り除き、切り藁を散布し日覆を行う。	アユシニ(ハリギリ)は根挿しが可能である。秋のうち一部根を切っておき、春に根挿しするとよい。 ・注意点: 苗に鋭いトゲがあるので取り扱い注意と工夫が必要である。
3 イワニ/ アオダモ/ あおだも	5月下旬	雌雄異株	10月上旬 ~下旬		・イワニ(アオダモ)は秋まきによって翌春発芽する。ピンニ(ヤチダモ)と発芽特性が異なる)	覆土は川砂30%、ピートモス20%、畑土50%の割合で混ぜた用土を用いる。	まき付け床および床替床の各作業はピンニ(ヤチダモ)とおなじである。
4 ウトウカ ン/ミ ズキ/み ずき	6月中旬	果実は赤紫色から黒色に熟す。	9月中旬 ~10月上旬		・生果のとりまきは9月中旬に行くと、翌春一部発芽するが多くの翌々春に発芽する。 ・10月上旬採取した貯蔵用種子のまき付けは初夏(6月下旬)までに土中埋蔵して秋まきすると翌春発芽する。	・とりまきは散播を行い押さえ板で種子を定着させる。苗畑土で覆土を行い押さえ板で押えて稲藁で被覆する。 ・貯蔵種子のまき付けは覆土後苗床シートで被覆を行って、翌春発芽が揃った頃取り除き、切り藁を散布し日覆を行う。	まき付け床および床替床の各作業はアユシニ(ハリギリ)と同じである。
5 カリンバ ニ/エ ヤマザク ラ/さく ら	5月上旬 ~下旬	果実は赤、黒紫色に熟す	6月下旬 ~7月中旬	果実が黒くなって落ち始めたからすぐ採取する 果肉を取り除いて、洗った方がまきやすい	・果肉付きとり播きはまたは土中埋蔵して秋播きを行うと翌春発芽。 ・土中埋蔵のまま越冬してもよい。 ・貯蔵用種子は果肉を除去が必要で初夏(6月下旬)までに土中埋蔵を行い、秋まきすると翌春発芽する。	・種子に殺菌剤を混ぜて散播 ・種子を床面と平になる程度に押えて覆土し、苗床シートをする。	翌春苗床シートを取り除き寒冷紗で日覆。 まき付け床の管理は除草、追肥(液肥)は早めに回数を多く行う。 8月上旬頃から褐斑病、うどん粉病や害虫が発生するので、病害虫の防除は殺菌剤と殺虫剤の混合液を散布。